

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「国際化の推進」

提出日 2018年 8月 31日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

学長 村田 治
国際連携機構長 日浦 直美
(国際連携機構)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン		長期戦略 (テーマ名)		統轄部署
1	学士課程教育	(6)	国際化の推進	総合企画部 (国際連携機構)
内容				
<p>「スーパーグローバル大学創成支援」事業 (SGU) により、本大学は財政支援期間終了の 2023 年度まで構想で定めた目標 (協定校への派遣 2500 人/年、受入 1500 人/年等) に向かって着実に大学全体の国際化を推し進める。その後は、数 (目標値) を重視した SGU 施策から前進し、より質の高い国際プログラム (派遣・受入・融合) を拡充することによって真にグローバルな教育環境を実現する。</p> <p>(1) 派遣</p> <p>春・夏の休暇を利用した短期プログラムによって留学を体験する層が飛躍的に増加しており、学生は海外で異なる社会や文化に触れて大きな刺激を受けて成長している。今後も SGU で量的な拡大を図る局面が続く中で、学部・研究科による専門分野のプログラムでの目標値 (全学で 750 人) 達成には抜本的な対策が必要である。</p> <p>一方、質的向上の観点からは、学生に人気の高い中期留学 (4 か月程度) を高度化しながら促進し、交換留学 (半年から 1 年) へと誘うのが基本的な方策である。特に交換留学は、多くの潜在的な希望者が英語運用能力不足などで断念しており、改善の余地が十分にあることから、希望者を確実に留学へと導くとともに、より上位のトップ大学への挑戦を促す。そして、留学から帰国後の学修に関する制度・施策を整備することで継続性を担保する。</p> <p>こうした中期・交換の留学は、時期によって、学部のカリキュラムにおける先修条件などと矛盾する場合があります。課題となっている。カリキュラムの体系化・構造化は質保証の重要なテーマであり、教務的な視点と国際化の視点を両立させる方策を講ずる。</p> <p>SGU 終了後も前述の量的な目標値を維持しつつ、質向上に重点を置いて推進する。</p> <p>(2) 受入</p> <p>外国人留学生の受け入れには、日本語で 4 年間学ぶ正規留学生、英語中心の短期留学生、英語中心または日本語中心で学ぶ交換留学生の 3 タイプがあるが、すべての留学生について、本大学学生との「融合」を進めることがグローバルな教育環境を創り出す最大のカギとなる。授業、寮生活、パートナー制度、コーヒアワー等のさまざまな機会での相互の異文化交流を促進する。</p> <p>中でも正規留学生の拡充が目標値の達成においても実質の融合においても大きなカギとなる。ただし、現行のように奨学金受給が前提では入学定員の厳格化と相まって収入が減少することや、生活費を稼ぐために学業成績が低下するなど生活面での課題を抱える例が多いこと、日本での就職の質的向上など多くの課題があり、これらを乗り越える包括的な戦略が必要である。また、SGU 期間内の受入拡大に合わせて混住寮や宿泊施設の整備は必須である。</p> <p>(3) 国際化の支援体制</p> <p>派遣・受入人数の増加に伴ってトラブルが加速的に増え、対応のための組織・人員体制が必要となる。危機管理においては国内トップレベルの重層的な体制を整えているが、国際連携機構と各学部が連携を強めて万全の体制を構築する。</p>				

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「国際化の推進」

提出日 2018年 8月 31日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

学長 村田 治
国際連携機構長 日浦 直美
(国際連携機構)

(4) 中等教育との接続について

高等部や千里国際高等部といった学院内各学校、さらには継続校（啓明学院）や指定校からの接続については、高校生に留学への興味が増すようなプログラムを入学前や入学直後に提供することが重要である。また、高校生が大学を選択する段階で、本大学の特長や魅力である国際性を強く訴求すること、さらには留学希望者層を積極的に獲得する入試の拡大等を戦略的に考える。

(5) その他

・ 英語運用能力の質的向上

アチーブメントテストの結果分析を用い、最大限の成果を出せるよう授業の抜本的な改善を行う。すべての習熟度別クラスにおいて、アチーブメントテストの得点が向上することを目標とする。

・ アフリカにおいて協定校を選択的に増やすことを検討する。

【フェーズⅠの Total Review】

- ・ SGU 事業として、協定等に基づく日本人学生派遣数が日本一となった実績等を基に第 2 回中間評価を受審中である。前回の「A」以上の評価取得をめざす。
- ・ コロナ禍による派遣・受入の全面休止を受け、ウィズコロナの代替機能を開発中である。
- ・ ポストコロナ・ポスト SGU を見据えた国際化事業の再構築が必要。

【フェーズⅡに向けた課題】

- ・ VE/COIL 型教育（オンライン国際共同学習）の推進
- ・ 英語で学べる課程／コースの枠組み検討
- ・ 7 割の留学しなかった学生（特に、2 割の「留学をやり残した」と考えている層）へのアプローチ強化
- ・ （語学教育ではなく）海外の学生に混ざって学ぶ教育の充実（学習環境の整備含む）
- ・ 長期留学（交換留学）派遣の強化
- ・ 交換留学派遣者に求められる高度な英語力修得のための施策の実施（英語力を更に上げなければ留学できるレベルに到達しない）。
- ・ 入学後の徹底した英語教育の推進
- ・ 留学による学修成果やその後のコンピテンシー獲得についての検証
- ・ ポストコロナ・ポスト SGU を見据えた国際化事業（全世界の学生を教育対象とした大学の在り方）の構想策定

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「国際化の推進」

提出日 2018年 8月 31日

 長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

 学長 村田 治
 国際連携機構長 日浦 直美
 (国際連携機構)

指標 1

指標	内容					
指標名	協定校への派遣学生数					
定義・算式	大学間協定に基づく派遣日本人学生数(通年、延べ数、詳細は SGU の定義に準拠)					
現状値 (指標設定時)	1,570 人 (2017 年度)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
					2,500 人	
実績値	2019 年度	1,831 人	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

指標 2

指標	内容					
指標名	より高度なプログラムによる学生の海外派遣者数					
定義・算式	JASSO 調査の定義に準拠に基づく派遣日本人学生数のうち、1 セメスター以上のプログラムおよび CCC プログラムで派遣する学生数(通年、延べ数、詳細は JASSO の定義に準拠)					
現状値 (指標設定時)	602 人 (2017 年度)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
					800 人	
実績値	2019 年度	530 人	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

指標 3

指標	内容					
指標名	外国人留学生数					
定義・算式	外国人留学生数(通年、詳細は SGU の定義に準拠)					
現状値 (指標設定時)	1,243 人 (2017 年度)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
					1,500 人	
実績値	2019 年度	1,447 人	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「国際化の推進」

提出日 2018年 8月 31日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

学長 村田 治
国際連携機構長 日浦 直美
(国際連携機構)

指標 4

指標	内容					
指標名	融合日本人学生数					
定義・算式	融合プログラムで単位を取得する日本人学生数(通年、延べ数、詳細は SGU の定義に準拠)					
現状値 (指標設定時)	後日確認					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
実績値	2019 年度		2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

指標 5

指標	内容					
指標名	海外派遣を伴うプログラムで単位を取得した学生数					
定義・算式	海外派遣を伴うプログラムで単位を取得した学生数 (通年、実数、詳細は SGU の定義に準拠)					
現状値 (指標設定時)	1,501 人(2017 年度)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
					2,700 人	
実績値	2019 年度	1,845 人	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

指標 6

指標	内容					
指標名	英語力において一定の基準を上回る学生の比率					
定義・算式	国際学部 TOEFL-ITP550/TOEIC770、文・総合政策学部 TOEFL540/TOEIC710、その他学部 TOEFL520/TOEIC670 以上のスコアを満たす学部学生数(各年度、詳細は SGU の定義に準拠)					
現状値 (指標設定時)	1,868 人(2017 年度)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
					2,000 人	
実績値	2019 年度	2,603 人	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度		2023 年度		2026 年度	
	2021 年度		2024 年度		2027 年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「国際化の推進」

提出日 2018年 8月 31日

 長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

 学長 村田 治
 国際連携機構長 日浦 直美
 (国際連携機構)

2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署	学部・研究科 での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① (SGU2-1-1) 協定校への海外派遣数 2500 人/単位取得を伴う海外派 遣 2700 人	国際連携機構 (TF 派遣)	必要なし									
② (SGU2-1-2) 学部・研究科での派遣プロ グラムの開発	国際連携機構 (TF 派遣)	必要⇒【必須 型】(全学部ま たは全研究科 での取組みが 必須)									
③ (SGU2-1-3) 留学の事前・事後教育の充 実	国際連携機構 (TF 派遣)	必要なし									
④ (SGU2-1-4) 留学奨学金(補助金対象外)	国際連携機構 (TF 派遣)	必要なし									
⑤ (SGU2-2-1) 受入留学生数 1500 人および フュージョン(融合)の推進	国際連携機構 (TF 受入)	必要なし									
⑥ (SGU2-2-2) 受入短期プログラムの拡大	国際連携機構 (TF 受入)	必要なし									
⑦ (SGU2-2-3) 学部・研究科での受入プロ グラムの開発	国際連携機構 (TF 受入)	必要⇒【必須 型】(全学部ま たは全研究科 での取組みが 必須)									
⑧ (SGU2-2-4) 留学生のための日本語教育 等の強化	国際連携機構 (TF 受入)	必要なし									
⑨ (SGU2-2-5) 渡日前入試の拡大	国際連携機構	必要⇒【必須 型】(全学部ま たは全研究科 での取組みが 必須)									
⑩ (SGU2-2-6) 海外指定校推薦入試制度の 拡大	国際連携機構	必要⇒【必須 型】(全学部ま たは全研究科 での取組みが 必須)									
⑪ (SGU2-4-4) 海外での関学フェロー制度 の活用	国際連携機構	必要なし									
⑫ (SGU2-4-5) 海外拠点の拡大	国際連携機構	必要なし									
⑬ (SGU2-4-6) ジョイントディグリー(J D)の開発とダブルディグ リー(DD)の拡充	国際連携機構	必要⇒【選択 型】(学部・研 究科が任意で 取組みを選 択)									
⑭ (SGU2-4-7) 英語による授業科目(専門、 専門導入科目)の拡大	総合企画部 (SGU)	必要⇒【必須 型】(全学部ま たは全研究科 での取組みが 必須)									

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「国際化の推進」

提出日 2018年 8月 31日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 村田 治 国際連携機構長 日浦 直美 (国際連携機構)
-----------------------	--------------------------------------

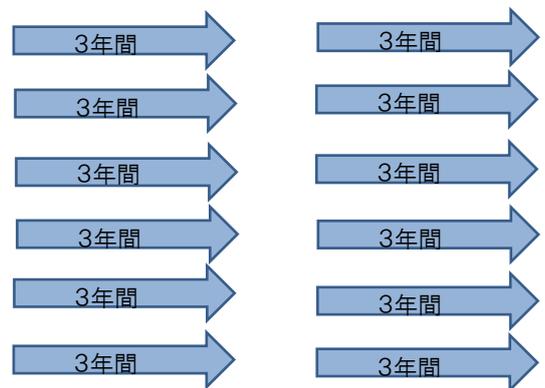
実施計画	担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
⑮ (SGU2-4-8) 英語のみで卒業・修了できるコースの拡大	総合企画部 (SGU)	必要⇒【選択型】(学部・研究科が任意で取組みを選択)									
⑯ (SGU2-4-9) 外国語による情報発信の強化 (SNS 英語化、英語動画アーカイブ化、多言語化)	広報室	必要なし									
⑰ (SGU2-5-1) 英語教育の飛躍的充実 (SGU2-5-3) 英語インテンシブ・プログラムの1年生4月より実施を統合	教務機構 (TF 英語教育)	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)									
⑱ (SGU2-5-2) TOEFL 対策講座	教務機構	必要なし									
⑲ (SGU5-1) グローバル化推進本部およびグローバル化推進室の設置	総合企画部 (SGU)	必要なし									
⑳ 旧・中期計画：大学の世界展開力強化事業を継承 海外派遣プログラムの開発・運営	国際連携機構	必要なし									

【備考欄】

※想定される実施計画の例示

- (1) 派遣
 - 中期留学・交換留学の拡大
 - 英語運用能力向上
 - 協定校の開発
 - 留学と学部カリキュラムのスムーズな接続の構築
 - 留学への動機づけの取り組み強化
 - 事前・事後教育の強化
 - 学部・研究科の専門分野プログラムの推進
- (2) 受入
 - 融合プログラムの開発
 - 正規留学生増加のための戦略検討
 - 混住寮等の整備
- (3) 国際化の支援体制
 - 派遣・受入体制の整備
 - 危機管理体制の学部との連携強化
- (4) 初等・中等教育との接続について
 - 学院内推薦や継続校、指定校等の入学者への早期の動機づけ
 - 入学後早期の留学プログラムの開発
 - 留学希望者獲得入試の拡大

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「国際化の推進」

提出日 2018年 8月 31日

 長期戦略テーマの責任者
 (統轄部署)

 学長 村田 治
 国際連携機構長 日浦 直美
 (国際連携機構)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	—
2020年度	
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2026年度	
2027年度	